

① 研究課題名：併存疾患（comorbidity）がびまん性大細胞型リンパ腫に対するR-CHOP療法の有効性及び安全性に与える影響

② 研究の目的：

名古屋市立西部医療センター血液・腫瘍内科は、次の研究を実施しています。

高齢化とともに、複数の疾患を抱えながら抗がん剤治療を受けられる方が多くなっています。しかし、併存する疾患が抗がん治療の有効性及び安全性に影響しているか否かは明らかになっていません。

この研究は、悪性リンパ腫の1つであるびまん性大細胞型リンパ腫の方を対象として、併存疾患と悪性リンパ腫の予後（生存期間）、抗がん剤治療 R-CHOP 療法の副作用及びその治療強度（ある期間の間に使用した薬の量）との関係を明らかにすることを目的として行われます。

③ 研究期間：

西暦 2019年 7月 ～ 2020年 3月 31日

④ 研究実施施設及び研究責任者

名古屋市立西部医療センター 血液・腫瘍内科

研究責任者：血液・腫瘍内科 部長 稲垣 淳

⑤ 研究の対象：

2011年5月1日～2018年12月31日に名古屋市立西部医療センターで R-CHOP 療法を行った悪性リンパ腫（びまん性大細胞型リンパ腫に限る）の方

⑥ 調査項目：

(a) 初回治療開始時の状況：

1) 悪性リンパ腫に関する情報：診断年月日、診断時年齢、性別、臨床病期、体調 (PS)、節外病変数、腫瘍マーカー

2) 併存疾患を評価する情報：Charlson comorbidity index 等（併存疾患の影響度を表す尺度）、併存疾患の種類

3) その他：日常生活動作の程度、栄養状態、心機能等（血液検査値 BNP）

(b) 初回治療開始時以降（2019年12月31日まで）

各抗がん剤の投薬量、投与日、有害事象、治療強度、R-CHOP 療法完遂の有無、転帰等

⑦ 研究の方法：

研究担当医師が、対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、「症例調査票」に記入し、集計・解析されます。

⑧ 研究成果の公開

日本臨床腫瘍学会で公表することを予定しています。

⑨ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて症例調査票を作成します。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

⑩ 利益相反

本研究は、特に研究資金は必要としません。

⑪ 問い合わせ先

研究事務局	診療科	研究責任者
名古屋市立西部医療センター 住所：〒462-8508 愛知県名古屋市北区平手町1-1-1	血液・腫瘍内科	稲垣 淳 TEL : 052-991-8121（代表）